

【学校の教育目標について】

Q1: 三つの柱を踏まえ、教育目標の設定・見直しをするのはなぜか。

A: 各学校における教育課程の編成は学校の教育目標の実現を目指して行われるものです。その教育課程を編成する基準となる学習指導要領が資質・能力の三つの柱で整理されました。学校としてどのような子どもたちを育てるのか、つまり、子どもたちにどのような資質・能力を身に付けさせるのか、ということをはっきりとすることは、日々の実践を行う上でも必要になります。大切なのは、日々の実践を行うことが、子どもたちの確実な資質・能力の育成、即ち、学校の教育目標の達成に繋がっているということを教員が十分に意識できるようにすることです。

※参考【新学習指導要領解説 総則編 第3章 第2節】

Q2: これまでの学校の教育目標の設定の仕方と何か変わるのか。

A: 学習指導要領には、各学校で設定する教育目標は次のような条件を具備する必要があることが示されています。以下にある現行の学習指導要領と新学習指導要領の記載事項を見比べてみると、これまでの教育目標の設定と大きな変更はないことが確認できます。

| 〔現行〕 | 〔新〕 |
|---|---|
| (1)法律に定められた小(中)学校の目的や目標を前提とするものであること。 (2)学習指導要領に示す各教科等の目標やねらいを前提とするものであること。 (3)教育委員会の規則、方針等に従っていること。 (4)地域や学校の実態等に即したものであること。 (5)教育的価値が高く、継続的な実践が可能なものであること。 (6)評価が可能な具体性を有すること。 | (1)法律及び学習指導要領に定められていた目的や目標を前提とするものであること。 (2)教育委員会の規則、方針に従っていること。 (3)学校として育成を目指す資質・能力が明確であること。 (4)学校や地域の実態等に即したものであること。 (5)教育的価値が高く、継続的な実践が可能なものであること。 (6)評価が可能な具体性を有するものであること。 |

※参考【新学習指導要領解説 総則編 第3章 第2節】

Q3: 学校の教育目標の中に3つの資質・能力を盛り込んだ表記をするのか。

A: 学校の教育目標については、決まった文言があるわけではありません。例えば、子どもたちにも学校の教育目標を意識させるため、一文で端的に示したものを掲げている学校もあると思います。一方、新学習指導要領では、日々の実践により子どもたちに育成を目指す資質・能力を確実に身に付けさせることができているか、教育目標の達成に向かっているかを確認することが求められているので、学校の教育目標を三つの柱で見直すことは必要になります。それらを理解したうえで、目指す子ども像や重点目標などで学校として育成を目指す資質・能力を明確にし、それと照らし合わせて日々の実践を振り返るということも考えられます。また、教育目標そのものを三つの柱で明確に示し、それを教員と子どもが共有して達成を目指していくということも考えられます。学習指導要領の趣旨を十分に理解し、各学校の実態に合わせて学校の教育目標を考えていくことが大切です。

※参考【新学習指導要領解説 総則編 第3章 第2節】

Q4: 学校の教育目標の見直しは校長がするのか、教職員全体でするのか

A: 各学校の教育課程の編成の基本的な要素には、学校の教育目標の設定や指導内容の組織及び授業時数の配当があります。教育課程の編成に当たっては、全教職員の協力の下に行われなければならないこととあわせて、校長が、学校全体の責任者として指導性を発揮し、家庭や地域社会との連携を図りつつ、学校として統一のある、しかも一貫性をもった教育課程の編成を行うことが必要であると示されています。

※参考【新学習指導要領解説 総則編 第3章 第1節】